

カンファレンスコール開催日：2025年8月7日

2026年3月期（2025年度）第1四半期カンファレンスコール質疑応答（要旨）

【ケブラダ・ブランカ銅鉱山の今後の見通しについて】

- Q) オペレーターであるテック社（カナダ）の決算発表で説明があった設備トラブルについて解説してほしい。
- A) ケブラダ・ブランカ銅鉱山では、鉱石から銅を回収する工程は立ち上がってきているが、その後工程である金属を回収した後の石を貯留する設備に不具合が生じており、2025年度の生産計画を下方修正することとなった。現在対策を進めており、2025年内に終わる予定だ。また、銅精鉱を輸出する港湾設備の不具合についても対応を進めており、こちらは生産計画に影響は出ていない。
- Q) 2026年以降はどのように考えれば良いか。
- A) 現在進めている不具合への対応が完了すれば、ケブラダ・ブランカ銅鉱山は競争力が高く、長期にわたり当社の収益基盤となる銅鉱山という位置づけは変わっていない。パートナーのテック社と引き続き協力し、操業の安定化と最適化などを進めていく。

【アメリカのモレンシー銅鉱山の状況について】

- Q) 7月まではアメリカのCOMEXでの銅価格がLMEの銅価格を上回る状況が続いていたが、足元では同水準となっている。モレンシー銅鉱山の業績予想にはどのように反映されているか。
- A) モレンシー銅鉱山は12月決算会社であるため、今回の業績予想（2025年度8月予想）では、1-6月は実績を、7月以降は今回の前提である9,500ドル/トンを使用して業績予想を作成している。
- Q) モレンシー銅鉱山は生産・販売数量が横ばいにも関わらずコストが改善する背景は何か。
- A) オペレーターのフリーポート・マクモラン社（米国）が生産性向上、コスト削減に取り組んでいる。例えば、外部業者への依存を減らすために従業員のスキルアップを進めることや、米国内の関税の影響を見据えたコスト削減活動など。そのような様々な取り組みの積み重ねがコスト単価差の改善に貢献すると考えている。

【銅製錬事業の今後の見通しについて】

- Q) 日本国内の銅の製錬所では生産体制縮小の動きがあるが、SMMではどうか。
- A) 足元の製錬マージン（TC/RC）は銅製錬には厳しい状況だが、当社の東予工場は非常に競争力が高いため、今のTC/RCの水準であればフル生産を続けることが経済的にベストな選択だ。銅の需要は将来的にも堅調であると考えており、今後も競争力強化に努めるが、減産やそれに伴う人員削減による固定費削減などは行わない方針だ。TC/RCが低下した場合においても、現在当社が使用する銅精鉱のうち、5~6割程度が權益を保有している鉱山由来であり、その部分は資源事業とオフセットされる。また、今後は權益保有鉱山由来の銅精鉱を7~8割程度まで高める計画だ。
- Q) 現在のTC/RCの水準が続いた場合に、来年度の製錬事業の損益はどのように考えれば良いか。
- A) 2025年度の業績予想においてTC/RC以外の主な損益悪化要因は、前提となる為替の水準を円高に想定したことによる在庫評価損益の悪化だ。これは為替の変動局面で発生する一時的な要因であることから、来年度の為替の水準が一定であれば、この押し下げ要因は剥落すると考えていただいて良い。

【材料事業の今後の見通しについて】

- Q) 2025年度8月予想において材料事業のセグメント損益を上方修正した背景は何か。特に、今後の電池材料の生産数量の見通しはどうか。
- A) 上方修正の要因は、電池材料、粉体材料、結晶材料・その他だ。顧客との関係もあり詳細は開示できないが、電池材料の生産は当社の5月時点での想定を上回る見通しだ。新品種への切り替えに向けた準備は予定通り進めているため、5月時点の想定よりも生産量が減少するカーブは緩やかになるイメージだ。粉体材料と結晶材料・その他は、生成AI向けの需要が続くと見込んでいる。

以上